

北総研は今年も「ジャパンホームショー&ビルディングショー2013」の展示企画「第8回ふるさと建材・家具見本市」に北海道グループとして出展します。

このイベントは、毎年秋に東京ビッグサイトで行われる住宅建材や設備機器に関する日本最大規模の展示会で、北総研では道産住宅技術・建材の全国への販路拡大や研究所の活動の普及を図るため、研究成果の展示やセミナーを行います。

ご来場いただいた際には、青色の看板を目印に、北海道ブースへお立ち寄り下さい。

日時：平成25年10月23日（水）から25日（金）まで
10:00～17:00

場所：東京ビッグサイト 東2・3ホール（北海道グループは東3ホール）

（企画課 酒井）

■【ビジネスEXPO「第27回北海道技術・ビジネス交流会」に出展します】

平成25年11月7日から8日にかけて、アクセスサッポロにおいてビジネスEXPOが開催されます。

これは道内企業をはじめ産学官による製品・技術等の情報交換により、商談や新たなビジネスにつなげることを目的として開催されているもので、北総研も道総研ブースに出展し、研究成果を展示します。

当日は北総研職員がブースで研究成果の説明を行いますので、是非会場へお越し下さい。

日時：平成25年11月7日（木）10:00～17:30
平成25年11月8日（金）9:30～17:00

場所：アクセスサッポロ
札幌市白石区流通センター4丁目

入場無料で会場へは無料シャトルバス（地下鉄大谷地駅より15分間隔）も運行しています。

（企画課 酒井）

=====
トピックス 「公営住宅の自治体収支シミュレーション」
=====

公営住宅を適切に整備するためには、その自治体収支を把握する必要があります。起債償還・家賃・近傍同種家賃・家賃低廉化事業交付金等の計算は複雑で団地ごとに規模・建設費・地価などの諸条件が異なっているため、現在管理中

また今後建設予定の住宅について長期に収支を計算するのは難しい問題です。そのため、当所では市町村から依頼を受け、「公営住宅収支シミュレーション」を実施しています。今まで約30の市町村から依頼を受けています。

収支シミュレーションを行うことにより、建設費・土地購入有無などの諸条件また直接建設・借上げ・買取りなどの供給方法を変えたとき、収支にどのような影響を与え、どのように整備すると収支的によくなるのかが分かります。例えば、地価や建設費等の条件にもよりますが、現地で建替えるよりも土地を購入して用途廃止・新規建設した方が収支的によくなるなど意外な結果が得られる場合もあります。

北海道の多くの市町村では高齢化が進み、また、現在高齢化率が低いところでも、ここ20年で急速に高齢者人口が増加すると予測されます。これらの社会情勢に対応するためにも、現在老朽化している公営住宅を早期に整備し、将来に備えておくことが求められます。公営住宅の収支を改善することにより、より多くの公営住宅の建替え・改善・長寿命化などの整備を進めることができます。

「公営住宅収支シミュレーション」(依頼試験)を検討してみたい市町村はお問い合わせください。

(居住科学G 福井)

=====
研究紹介「冬季の歩行環境の路面と靴に関する研究」
=====

旭岳にも初雪が降り、住宅・車・服装などの冬支度を始める時期が来ましたが今回は靴に関する研究について紹介します。

冬季には凍結路面で転倒事故が多発しており、冬季における歩行環境の安全性が求められています。歩行者の転倒を防ぐためには路面材料や路面形状などのハード環境の要素、歩行形態や靴などの人の要素、砂や雨などの介在物の要素を考慮しなければなりません。靴の滑り性については、均質なゴム片としての試験方法のみで、様々な材質や形状の組み合わせられた靴全体の評価方法が設定されていませんでしたので、靴の滑り性の評価方法を明らかにする研究を行いました。

寒冷条件での靴底の材料試験として、氷面を床材にしたJIS A1454に準じた滑り性試験を行い、表面の水の有無による滑り性の差を評価しました。散水条件では材料により凍結の影響が大きくなることや、危険側になることから0℃での試験が評価には適していました。

歩行による主観量評価について、平面歩行及び斜面歩行の関係を検討し、それぞれの主観量は相関性があり、滑りの実態から安全性を評価できることがわかりました。

冬季の歩行環境の路面において、靴底の材料性能と滑りの関係を分析した結果靴の滑り性に関して、上り坂では前足部の影響が強く、下り坂では後足部の影

響が強いことがわかりました。靴の防滑性の評価方法として、前足部・中足部・後足部の影響を考慮して、靴全体の滑り抵抗係数を計算する式を提案しました。

冬季の滑りに対して安全性の高い靴の評価方法の検討から得られた知見に基づき、共同研究機関において滑りにくい靴の製品開発に活用していく予定です。

(居住科学G 林)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【北総研フォーラム「震災をきっかけとして住まいと建築を考える」を開催しました】

10月2日(水)に札幌エルプラザホールにおいて、北総研フォーラム「震災をきっかけとして住まいと建築を考える」を開催しました。

本フォーラムには、建築関係者を中心に約130名を超える方々にご来場いただきました。

第1部では、北総研が取り組んでいる地震被害等に係る研究成果や、これまでの自然災害に対する取り組みについて、研究担当者が発表しました。

特別講演では、TBS「サンデーモーニング」などに出演されている、造園家で東京都市大学の涌井史郎教授をお迎えし、「東日本大震災の復興の階梯」というテーマで講演いただきました。講演では、東日本大震災の震災復興計画を考えるうえで、どのような計画思想を持つべきかなどについて、貴重なお話をいただきました。

第2部では、国土技術政策総合研究所の小林氏と宮城県で設計事務所を営む佐々木氏をお迎えし、パネルディスカッションを行いました。佐々木氏からは東日本大震災で自らの被災した経験や地域の復興に向けた取り組みについて、貴重なご説明をいただきました。

フォーラムに参加された方々は、講演やパネルディスカッションの話を聞き、住まいや建築が備えるべき災害対策について考える良い機会になったものと思います。

(企画課 北垣)

■【道総研 戦略研究成果が活用された実証住宅の内覧会を開催しました】

先月号で紹介させていただいたカラマツ心持ち正角材を用いた実証住宅が完成し、10月11日から14日に内覧会を開催しました。

この住宅は、道総研の戦略研究(「新たな住まい」と森林資源循環による持続可能な地域の形成)における地域材の利用拡大を目指すプロジェクトの一環として、旭川市の工務店(新濱建設)の協力のもとに建てられた、北海道の“資

源”と“技術”が詰め込まれた住宅となっています。
林産試験場で研究開発されたカラマツ心持ち正角材を中心に、市場流通材を含めた道産材をふんだんに活用し、柱や梁が見える「現し（あらわし）」という真壁造を採用することで、道産木材を肌で実感できる工夫がなされています。
さらに、北方型住宅E C O基準を満たす高い住宅性能も有しています。
内覧会には、報道機関や建築・林業関係者をはじめ、家族連れなどの一般の方にも多くご来場いただきました。道産木材の良さを体感し、より関心を持っていただける機会になったのではと考えています。

（構法材料G 中村）

※※※

■【9月の業務報告】

平成25年9月の受付件数

□依頼試験（担当：性能評価課）
依頼試験 5件（累計88件）
性能評価 2件（累計 6件）

□施設見学（担当：企画課）
件数 4件
人数 21名

□技術相談（担当：企画課）
件数 11件（累計84件）

※※※

■【構造計算適合性判定センターから】

□9月の判定業務
受付 45件（49棟）
結果通知 35件（44棟）

9月の判定依頼は、共同住宅など住居系施設16件、工場・倉庫等の生産・物流系施設12件、医療・福祉系施設（サービス付き高齢者住居含む）4件、学校などの教育系施設2件、その他でした。

総判定日数（受付から結果通知までの期間）の平均は51.0日、実判定日数（設計者の修正期間を除く実際の審査期間）の平均は13.8日でした。

9月も依頼件数が落ち着く傾向にありますが、センター内で判定中の件数は、依然例年より多く、今年度の累積では前年同月より2割程度多い状況です。

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：(地独) 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所